

島しょ地域の緊急航空機搬送における小型血液搬送冷蔵庫の活用  
～血液製剤を無駄にしないために～

城川 雅光 中島幹男 小山 茂 後藤英昭

東京都では、島しょ地域の緊急を要する患者を航空機搬送している。他地域のドクターヘリと比較して長時間の搬送時間を要している。消化管出血などで輸血を要する症例であっても島内で血液製剤を確保できる施設は少ない。その場合、当院から O 型濃厚赤血球液を携行し、輸血をしながら搬送している。

一方で輸血を要するか判断に迷う症例についても、飛行中の安全確保のため血液製剤を携行しているが、不要な輸血は行わないという観点から使用せずに病院に到着する症例もある。その場合は温度管理が不確実で製剤の安全性が担保できないため、持参した血液製剤は破棄していた。

今回新規に開発された小型血液搬送冷蔵庫（ATR700-RC05®）を活用することで、搬送中の温度管理が確実となったことやヘリ搬送での製剤変化がないことが確認できたため、搬送中に使用しなかった血液製剤の再使用が可能となった。

今後、他地域の僻地診療でも血液製剤の有効利用に応用可能と考え報告する。